

平成 27 年度「第 2 回 広島大学マスタース講演会」報告

広島大学マスタース会員 渡部和彦

今年度 2 回目の公開講演会が、平成 27 (2015) 年 12 月 12 日 (土)、東広島市サンスクエア 3 階のコラボスクエア会議室で開催された。講師は、広島大学マスタース会員の山本義雄先生。「アジアの遺伝資源探索：動物・民族・食文化」と題して、午後 1 時 30 分から 3 時までの 1 時間 30 分を、貴重なスライドを基に、ご自身の体験談を交えながらお話された。講演会の対象は、広島大学マスタース会員、同マスタース友の会会員、一般市民でした。

山本義雄先生は、広島大学生物圏科学研究科の名誉教授で、家畜育種学、動物遺伝資源の保護と評価がご専門とのことです。現在は、「アジア諸国の動物遺伝資源の探索」をテーマに、海外での研究・調査活動を精力的に継続されています。とくに、カザフスタン、ラオス、ブータンなどを中心に、フィールドワークを中心に行っています。



講演で先生が強調されたことは、「生物多様性」を維持することの重要性でした。つまり、現在における、生物絶滅の危機に対する理解を深めることとその対策についてです。生物絶滅の例として、17 世紀以降では、4 年に 1 種の絶滅が、現在は、1

年に4万種の絶滅とのことでした。

生物絶滅の理由の一つは、乱開発による自然環境破壊によるものであり、地球温暖化、環境汚染も大きな要因であるとのこと。侵入生物による攪乱と乱獲等についても、資料を示され、わかりやすく解説された。また「遺伝資源」の重要性についても紹介された。すなわち、生物が持つ遺伝的多様性のうち、新薬等の開発に利用できる可能性のあるものおよび、その保全に関する国際条約についてである。資源を保有する開発途上国とその資源を利用する先進国との公正な利益配分に関することなど、幅広く専門的な内容であったが、わかりやすく解説していただき、参加者に印象深い講演でした。

山本先生が、現地を訪れた際の、スナップ写真と解説は、大変楽しいものでした。美しい景色と共に、いわゆる観光地とは違う、ある種「ワイルド」な環境、食文化などを紹介していただいた。一度は行ってみたいと思わせる、魅力的な場所でしたが、ネズミの干物や、各種昆虫等の食材を楽しむ勇気(?)も併せ持つ必要がありそうでした。